



輝く黄色、この黄色って
何から出来ているの？

インドの黄色はとても上質で、17～18世紀にはヨーロッパにも高い値で輸出されており、レンブラントも使用したと言われています。古来より黄色の顔料は貴重で、どこの国にも良いものはありませんでした。鉱物では硫化ヒ素（日本では密陀僧と呼ばれた）しかなく、これは硫化して黒く変色しやすいものでした。そのため、日本ではクチナシなどの植物染料を使用してきましたが、耐光性に欠け、色が長い年月で消えてしまいました。

インドの黄色はペオリ（英名はIndian Imperial）と呼ばれ、元気のよい雌牛に春の若いマンゴーの葉だけを1ヵ月間食べさせて、その尿を炭火で煮詰め、その後太陽で乾かしてつくりました。これは、マンゴーの若葉の染料が牛の腹の中で媒染されてきた産物で、沈殿した黄色は退色しない素晴らしい黄色の絵具として使われました。この美しい黄色が使われたことで、インド細密画は発達したのかもしれない。



左：《王の肖像》（部分）—マンコット派— 1700年頃
上：《マハ・バーラタよりの1シーン》—メワール派— 1670-80年

畠中光享コレクション Kokyo Hatanaka Collection

日本画家畠中光享氏が約半世紀の歳月をかけて収集したインド美術コレクション。1974年初渡印、13ヵ月かけて美術を見聞する。その後100回近く渡印してインド細密画と染織の調査を続ける。線と色と時代を超えた美しさに魅せられ、収集は650点余に及ぶ。インドのコレクターから入手したものもあるが、欧米のオークションにおいて購入したものも多い。

講演会

「インド宮廷絵画について」

講師：畠中光享氏（日本画家・インド美術研究者）

日時：10月17日（土）午後2時～ 会場：当館1階セミナールーム
定員：35名（先着順）※当日午後1時30分から整理券配布・開場聴講無料

スペシャル・トーク

畠中光享氏の話聞きながら展示室の作品を巡ります。

日時：9月26日（土）午後2時～ 会場：当館1階展示室
聴講無料 ※ただし、当日の観覧チケットが必要です。

※新型コロナウイルスの影響により、本展および関連イベントの予定に変更が生じることがあります。最新の情報は当館のウェブサイトなどを通して随時お知らせいたします。

観覧料

一般【高校生以上】1,000円（900円）／小中学生 500円（450円）

展覧会限定フリーパス「Limi-pass（リミパス）」1,500円

※（）内は20名以上の団体料金 ※未就学児は無料 ※岡崎市内の小中学生は無料（わくわくカードまたは学生証を提示）※各種障がい者手帳の交付を受けている方及びその介助者1名は無料

岡崎市美術館
Okazaki City Museum [Mindscape Museum]

〒444-0002 愛知県岡崎市高隆寺町峠1番地 岡崎中央総合公園内
TEL.0564-28-5000 FAX.0564-28-5005

<http://www.city.okazaki.lg.jp/museum/index.html>



HPはこちら

ギャラリー・トーク

日時：11月1日（日）午後2時～ 会場：当館1階展示室

担当：当館学芸員

聴講無料 ※ただし、当日の観覧チケットが必要です。

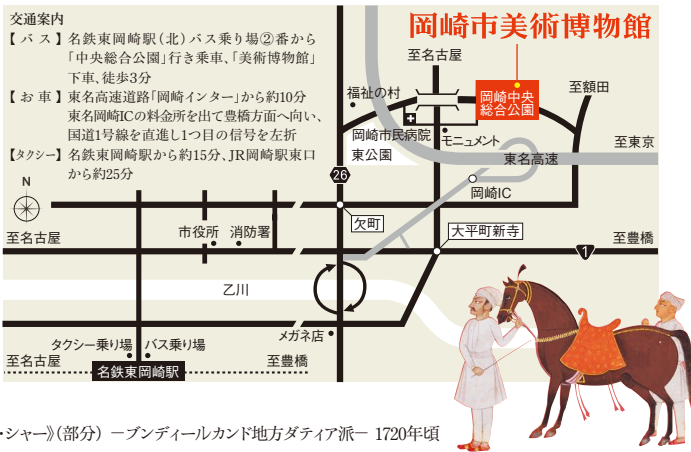
無料開放DAY 10月2日（金）はインドの祝日のため展覧会の無料開放

シネマ・ドリぶら インド映画「大地のうた」を上映。※上映時間2時間程度

日時：10月15日（木）①午前10時30分～ ②午後2時～ ③午後6時30分～

会場：岡崎市立中央図書館交流プラザリぶらホール 定員：100名

主催：りぶらサポータークラブ、岡崎市立中央図書館



《タージ・マハルに詣でるオランガゼブの孫のシュリ・モハマッド・シャー》（部分）—ブンディールカンド地方ダティア派— 1720年頃

The Best of Indian Miniature Paintings from Kokyo Hatanaka Collection

2020
9/26 SAT
11/8 SUN



畠中光享コレクション

開館時間／午前10時～午後5時 ※入場は午後4時30分まで 休館日／毎週月曜日

岡崎市美術館
Okazaki City Museum [Mindscape Museum]

主催／岡崎市美術館、中日新聞社、日本経済新聞社

《楽器を持つ女》（部分）—キジャンガル派— 1760年頃